

**【調査結果】**

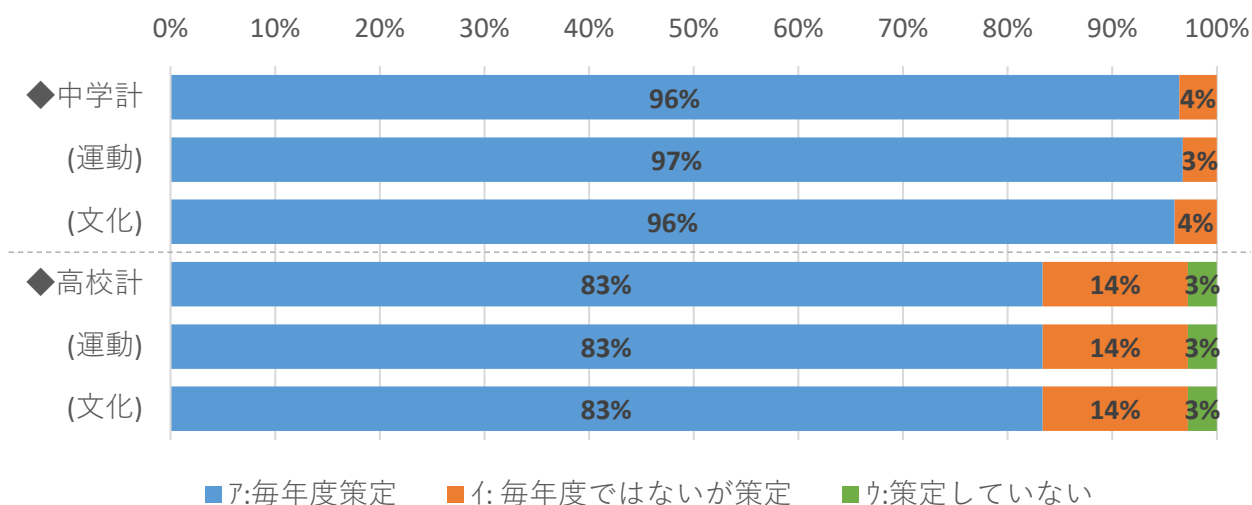
(※ 以下の各表・グラフに示す割合は、端数処理のため合計が100%にならない場合があります)

**1. 学校部活動運営のための体制整備について**

**(1) 「学校の部活動に係る活動方針」の策定**

Q. 「学校の部活動に係る活動方針」の策定について、現状にあてはまるものを選択してください

- ア 毎年度策定している
- イ 毎年度ではないが策定している
- ウ 策定していない

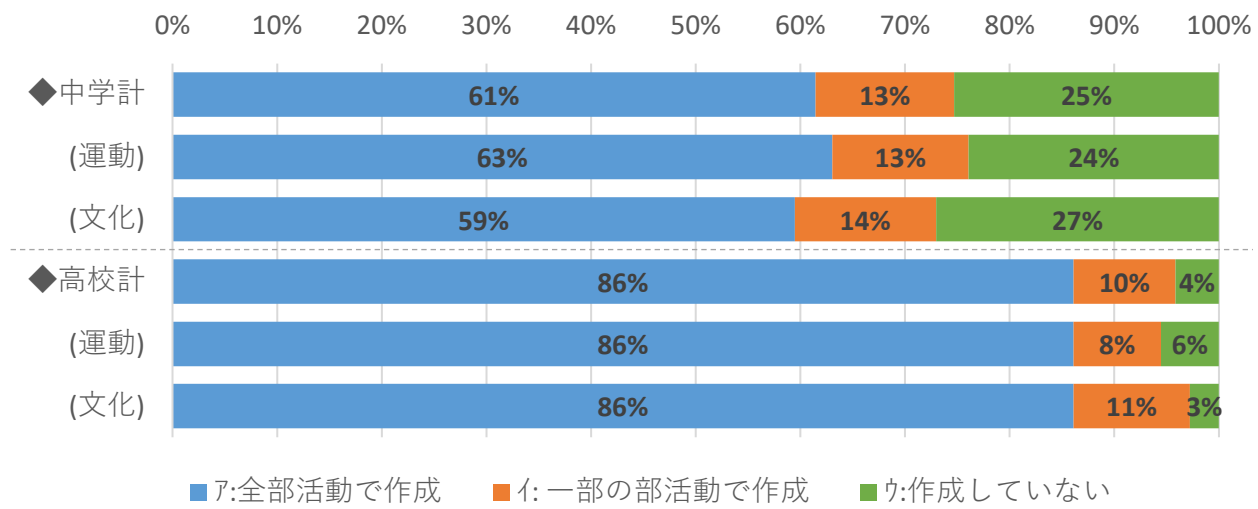


		ア: 毎年度策定		イ: 毎年度ではないが策定		ウ: 策定していない	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
中 学 校	<b>合 計</b>	<b>160</b>	<b>96%</b>	<b>6</b>	<b>4%</b>	<b>0</b>	<b>0%</b>
	(運動)	89	97%	3	3%	0	0%
	(文化)	71	96%	3	4%	0	0%
高 校	<b>合 計</b>	<b>60</b>	<b>83%</b>	<b>10</b>	<b>14%</b>	<b>2</b>	<b>3%</b>
	(運動)	30	83%	5	14%	1	3%
	(文化)	30	83%	5	14%	1	3%

(2) 年間の活動計画の作成

Q. 年間の活動計画の作成について、現状にあてはまるものを選択してください

- ア 全ての部活動において年間の活動計画を作成し校長に提出している
- イ 一部の部活動において年間の活動計画を作成し校長に提出している
- ウ いずれの部活動も年間の活動計画を作成していない

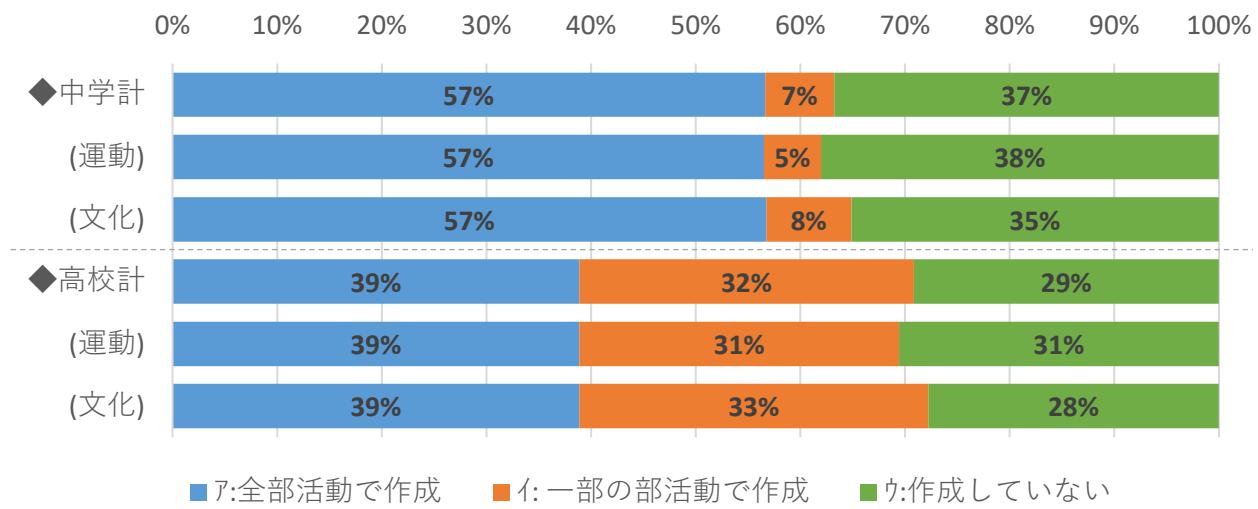


		ア:全部活動で作成		イ:一部の部活動で作成		ウ:作成していない	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
中 学 校	合 計	102	61%	22	13%	42	25%
	(運動)	58	63%	12	13%	22	24%
	(文化)	44	59%	10	14%	20	27%
高 校	合 計	62	86%	7	10%	3	4%
	(運動)	31	86%	3	8%	2	6%
	(文化)	31	86%	4	11%	1	3%

(3) 毎月の活動実績の作成

Q. 毎月の活動実績の作成について、現状にあてはまるものを選択してください

- ア 全ての部活動において毎月の活動実績を作成し校長に提出している
- イ 一部の部活動において毎月の活動実績を作成し校長に提出している
- ウ いずれの部活動も毎月の活動実績を作成していない

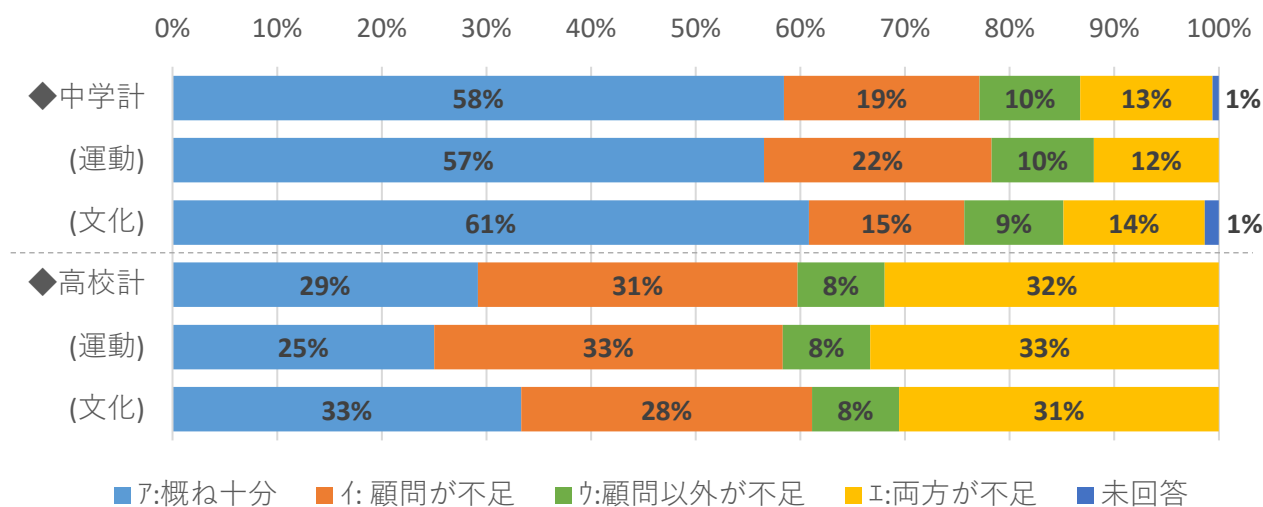


		ア:全部活動で作成		イ:一部の部活動で作成		ウ:作成していない	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
中 学 校	合 計	94	57%	11	7%	61	37%
	(運動)	52	57%	5	5%	35	38%
	(文化)	42	57%	6	8%	26	35%
高 校	合 計	28	39%	23	32%	21	29%
	(運動)	14	39%	11	31%	11	31%
	(文化)	14	39%	12	33%	10	28%

(4) 部活動指導者（教員・外部指導者含む）の充足

Q. 部活動指導者（教員・外部指導者含む）の充足について、現状にあてはまるものを選択してください

- ア 概ね十分な数の指導者（顧問・顧問以外の指導者）を確保できている
- イ 部活動顧問の数が不足している
- ウ 部活動顧問以外の指導者の数が不足している
- エ 部活動顧問及び顧問以外の指導者の両方が不足している

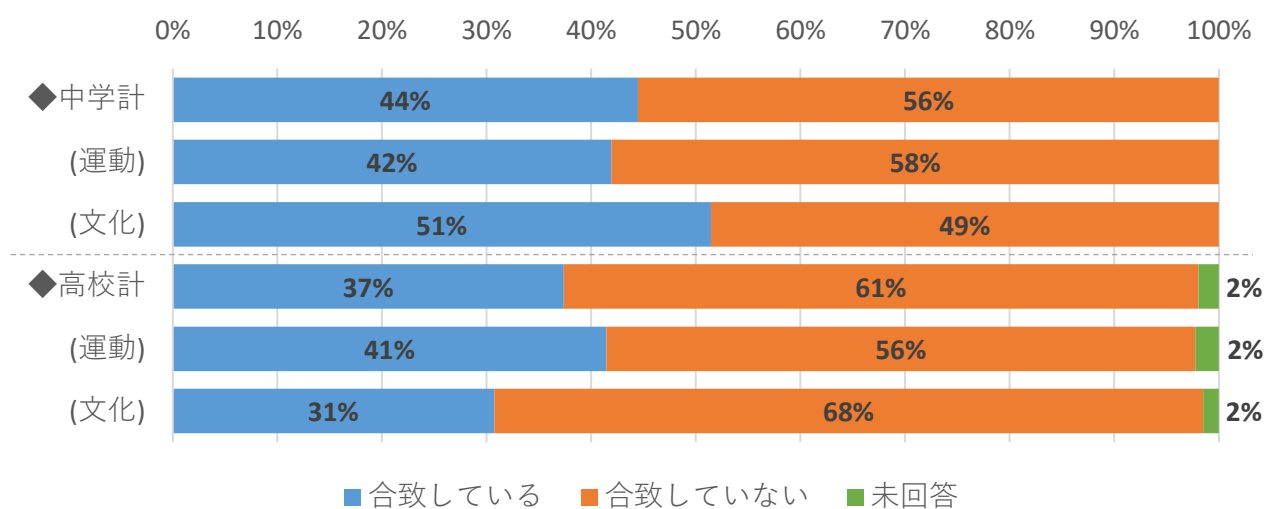


		ア:概ね十分		イ:顧問が不足		ウ:顧問以外が不足		エ:両方が不足		未回答	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
中 学 校	合 計	97	58%	31	19%	16	10%	21	13%	1	1%
	(運動)	52	57%	20	22%	9	10%	11	12%	0	0%
	(文化)	45	61%	11	15%	7	9%	10	14%	1	1%
高 校	合 計	21	29%	22	31%	6	8%	23	32%	0	0%
	(運動)	9	25%	12	33%	3	8%	12	33%	0	0%
	(文化)	12	33%	10	28%	3	8%	11	31%	0	0%

(5) 部活動担当教員（事務職員、部活動指導員を除く）の状況

① 専門性と合致している教員数

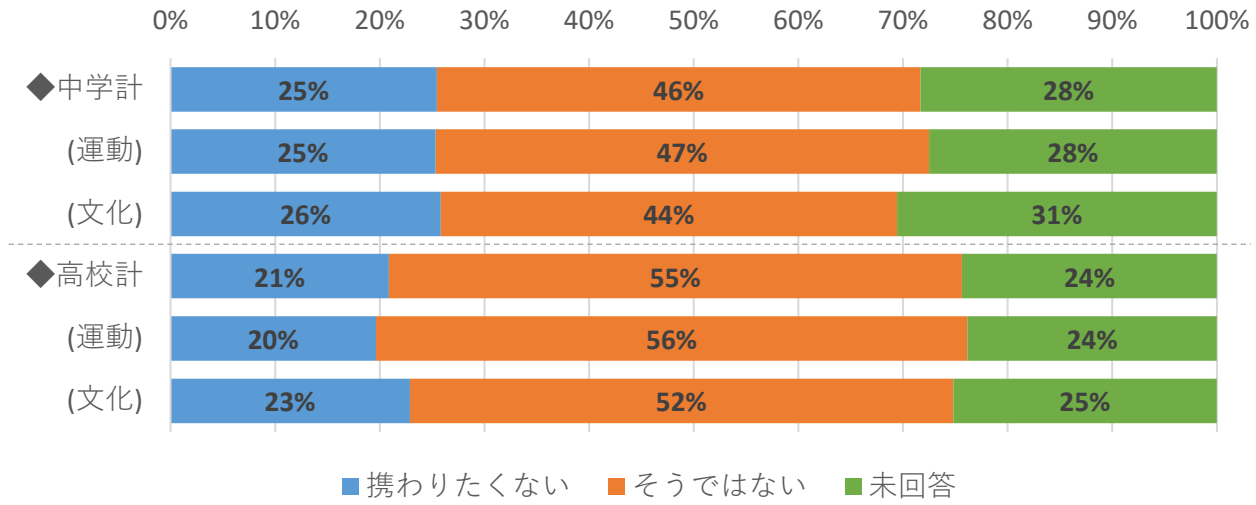
Q. 部活動担当教員（事務職員、部活動指導員を除く）のうち、教員自身の専門性（指導経験または一定の選手等経験ありの場合を含む）と、担当する部活動の種目・分野が合致している教員の人数を回答してください



		合致している		合致していない		未回答	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
中 学 校	<b>合 計</b>	<b>697</b>	<b>44%</b>	<b>870</b>	<b>56%</b>	<b>0</b>	<b>0%</b>
	(運動)	480	42%	665	58%	0	0%
	(文化)	217	51%	205	49%	0	0%
高 校	<b>合 計</b>	<b>589</b>	<b>37%</b>	<b>956</b>	<b>61%</b>	<b>31</b>	<b>2%</b>
	(運動)	405	41%	550	56%	22	2%
	(文化)	184	31%	406	68%	9	2%

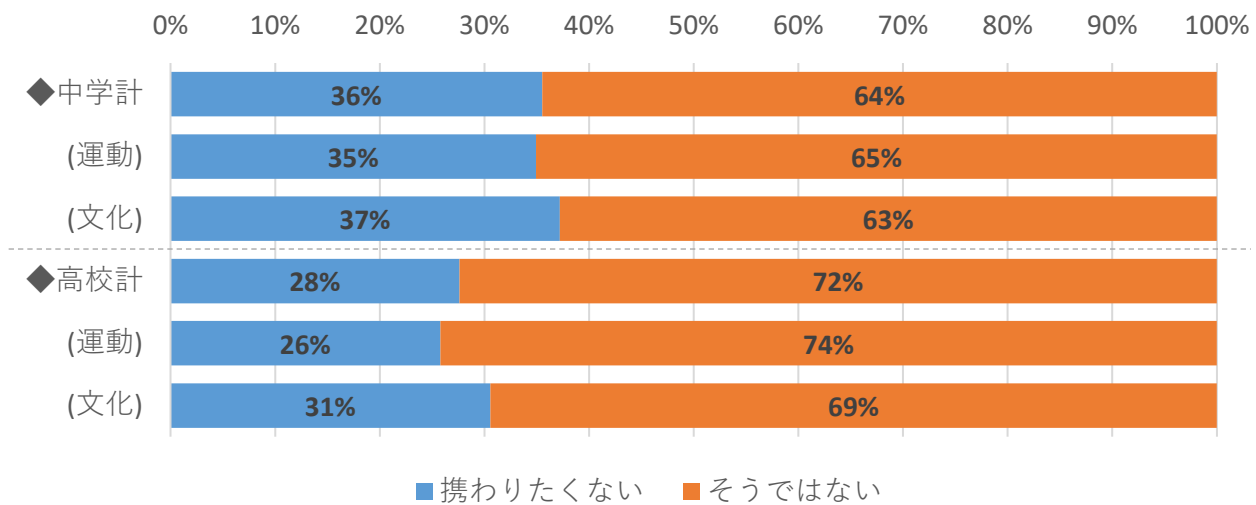
② 携わりたくない教員数

Q. 部活動担当教員（事務職員、部活動指導員を除く）のうち、部活動に携わりたくない教員（できれば携わりたくない教員を含む）の人数を回答してください（独自調査のため未回答の市町村あり）



		携わりたくない		そうではない		未回答	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
中 学 校	合 計	399	25%	724	46%	444	28%
	(運動)	290	25%	540	47%	315	28%
	(文化)	109	26%	184	44%	129	31%
高 校	合 計	329	21%	863	55%	384	24%
	(運動)	192	20%	552	56%	233	24%
	(文化)	137	23%	311	52%	151	25%

<回答者のみ>

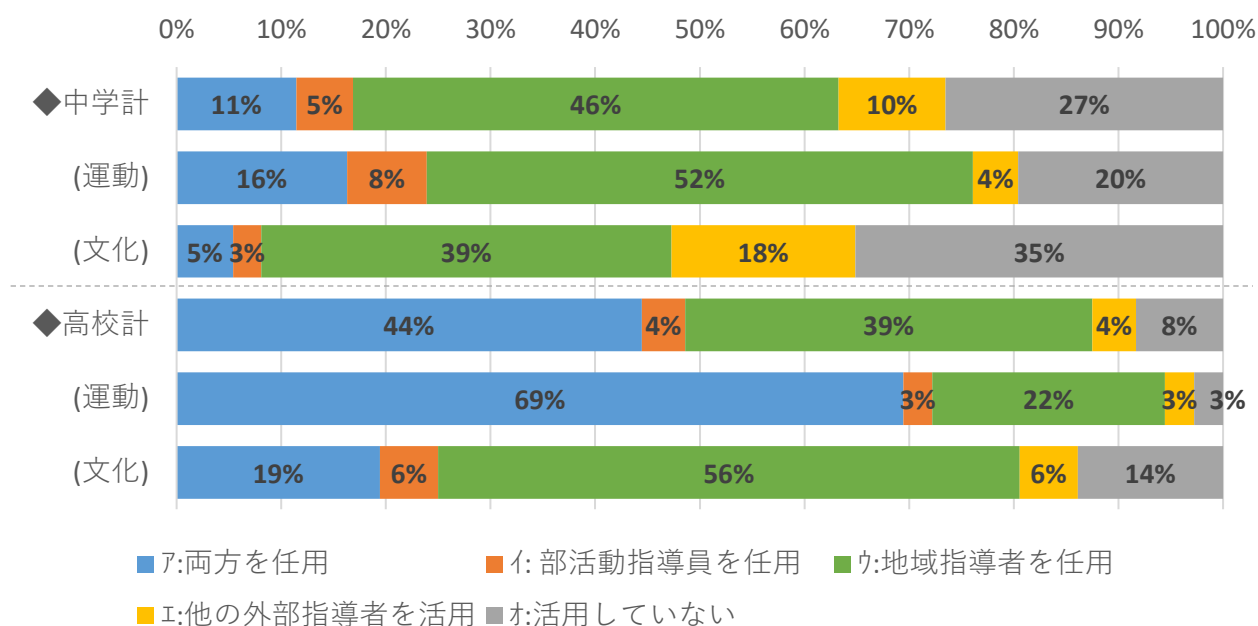


		携わりたくない		そうではない	
		回答数	割合	回答数	割合
中 学 校	合 計	399	36%	724	64%
	(運動)	290	35%	540	65%
	(文化)	109	37%	184	63%
高 校	合 計	329	28%	863	72%
	(運動)	192	26%	552	74%
	(文化)	137	31%	311	69%

(6) 外部指導者の活用

Q. 外部指導者の活用について、現状にあてはまるものを選択してください

- ア 部活動指導員（単独指導可）、地域指導者（単独指導不可）の両方を任用している
- イ 部活動指導員（単独指導可）を任用している
- ウ 地域指導者（単独指導不可）を任用している
- エ 部活動指導員、地域指導者以外の外部指導者を活用している
- オ 外部指導者を活用していない



		ア:両方を任用		イ:部活動指導員を任用		ウ:地域指導者を任用		エ:他の外部指導者を活用		オ:活用していない	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
中 学 校	合計	19	11%	9	5%	77	46%	17	10%	44	27%
	(運動)	15	16%	7	8%	48	52%	4	4%	18	20%
	(文化)	4	5%	2	3%	29	39%	13	18%	26	35%
高 校	合計	32	44%	3	4%	28	39%	3	4%	6	8%
	(運動)	25	69%	1	3%	8	22%	1	3%	1	3%
	(文化)	7	19%	2	6%	20	56%	2	6%	5	14%

## (7) 外部指導者活用の良い点・悪い点、意見等

### < 中学校 >

#### (良い点)

- ・ 専門的な指導が可能であり、生徒の競技力向上や体のメンテナンス、取組意欲向上につながる。
- ・ 特に専門外の教員の心身の負担をはじめ、技術指導や大会引率、安全面の配慮等、教職員の負担軽減につながる。
- ・ 地域の人材を生かすことができ、長期にわたる継続した指導が可能。小学校時代からの繋がりが活かせる。地域クラブへの橋掛けになる。

#### (悪い点)

- ・ 学校生活の状況を踏まえた指導や、生徒個別の対応が求められる場合、問題が起こった場合等に、生徒指導としての対応や教育的な解決ができない。また、状況の把握がしづらい。
- ・ 指導内容や活動日程等の念入りな調整・報告等のための負担が生じる。
- ・ 学校の指導方針や学校教育としての考え方とズレが生じ、トラブルが発生する場合がある。
- ・ 外部指導者の仕事の都合等で、指導の時間が限られたり、指導ができない日がある。
- ・ 申請手続き等の事務手間が発生する。

#### (その他)

- ・ 活動に対して十分な謝金や交通費、大会・練習試合時の旅費等が払えていない。
- ・ 予算の都合で十分な人数の指導者確保ができていない。
- ・ 人材確保が困難。配置が必要な競技の指導者がいない。
- ・ 部活動指導員と地域指導者の役割の違いが明確でないまま運用されているケースがある。

### < 高等学校 >

#### (良い点)

- ・ 専門的な指導が可能であり、生徒の競技力向上につながっている。
- ・ 特に専門外の教員の心身の負担をはじめ、技術指導や大会引率、安全面の配慮等、教職員の負担軽減につながっている。
- ・ 地域の人材を生かすことができ、長期にわたる継続した指導が可能。

#### (悪い点)

- ・ 生徒に対する指導観が学校と外部指導者でずれが生じることがある。外部指導者は部活動以外の部分に関わることができない。学校側としては状況の把握がしづらい。
- ・ 学校と外部指導者の連絡、時間の管理等煩瑣なことが多い。

#### (その他)

- ・ 活動に対して十分な謝金や交通費等が払えていない。
- ・ 予算の都合で十分な人数、必要な競技の指導者確保ができていない。



## 2. 休養日・活動時間の設定について

### (1) 学期中の休養日に関するきまり

Q. 学期中の休養日に関するきまりについて、現状にあてはまるものを選択してください

(中学校)

ア ガイドラインどおり（休養日に関するきまりがあり、週当たり2日以上の休養日（平日に少なくとも1日、土曜日及び日曜日に少なくとも1日以上）を設けている）

イ ガイドライン未満（休養日に関するきまりがあるが、週当たりの休養日は2日より少ない日数を設定している）

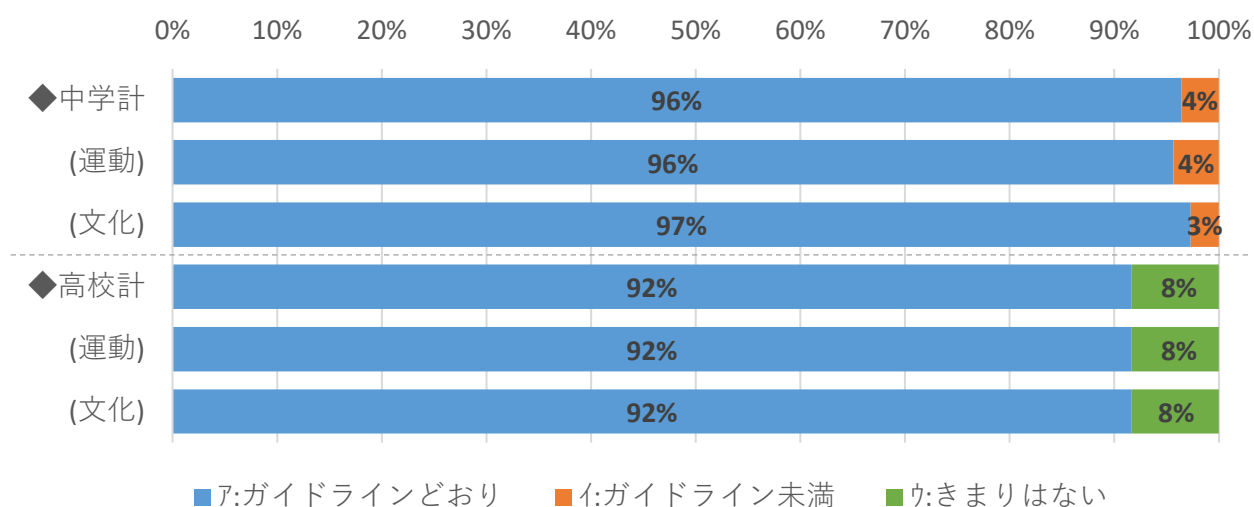
ウ 休養日に関するきまりはない

(高等学校)

ア ガイドラインどおり（休養日に関するきまりがあり、週当たり1日以上の休養日を設けている）

イ ガイドライン未満（休養日に関するきまりがあるが、週当たりの休養日は1日より少ない日数を設定している）

ウ 休養日に関するきまりはない



		ア:ガイドラインどおり		イ:ガイドライン未満		ウ:きまりはない	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
中 学 校	合 計	160	96%	6	4%	0	0%
	(運動)	88	96%	4	4%	0	0%
	(文化)	72	97%	2	3%	0	0%
高 校	合 計	66	92%	0	0%	6	8%
	(運動)	33	92%	0	0%	3	8%
	(文化)	33	92%	0	0%	3	8%

(ガイドライン) 学期中の休養日	
中学校	週当たり2日以上の休養日を設ける。(平日に少なくとも1日以上、かつ土曜日及び日曜日に少なくとも1日以上を休養日とする。)
高等学校	週当たり1日以上の休養日を設ける。

(2) 学期中の活動時間に関するきまり

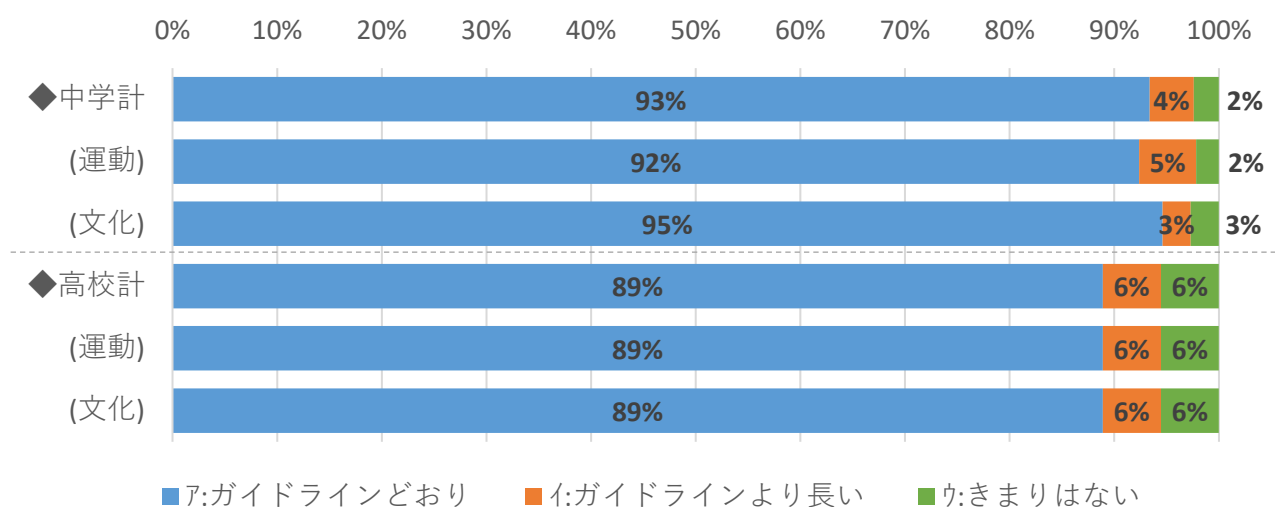
Q. 学期中の活動時間に関するきまりについて、現状にあてはまるものを選択してください

(中学校)

- ア ガイドラインどおり（活動時間に関するきまりがあり、長くとも平日では2時間程度、学校の休業日は3時間程度としている（大会前等の例外を除く））
- イ ガイドラインより長い（活動時間に関するきまりがあるが、平日は2時間程度、学校の休業日は3時間程度よりも長い時間を設定している）
- ウ 活動時間に関するきまりはない

(高等学校)

- ア ガイドラインどおり（活動時間に関するきまりがあり、長くとも平日では3時間程度、学校の休業日は4時間程度としている（大会前等の例外を除く））
- イ ガイドラインより長い（活動時間に関するきまりがあるが、平日は3時間程度、学校の休業日は4時間程度よりも長い時間を設定している）
- ウ 活動時間に関するきまりはない



		ア:ガイドラインどおり		イ:ガイドラインより長い		ウ:きまりはない	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
中 学 校	合 計	155	93%	7	4%	4	2%
	(運動)	85	92%	5	5%	2	2%
	(文化)	70	95%	2	3%	2	3%
高 校	合 計	64	89%	4	6%	4	6%
	(運動)	32	89%	2	6%	2	6%
	(文化)	32	89%	2	6%	2	6%

(ガイドライン) 学期中の活動時間	
中学校	1日の活動時間は、平日では長くとも2時間程度、学校の休業日は長くとも3時間程度とする。
高等学校	1日の活動時間は、平日は長くとも3時間程度、学校の休業日は長くとも4時間程度とする。

(3) 長期休業中の休養日に関するきまり

Q. 長期休業中の休養日に関するきまりについて、現状にあてはまるものを選択してください

(中学校)

ア ガイドラインどおり（長期休業中の休養日に関するきまりがあり、学期中と同じ（週2日以上）としている）

イ ガイドライン未満（長期休業中の休養日に関するきまりがあるが、休養日の設定は学期中よりも少ない（週2日未満））

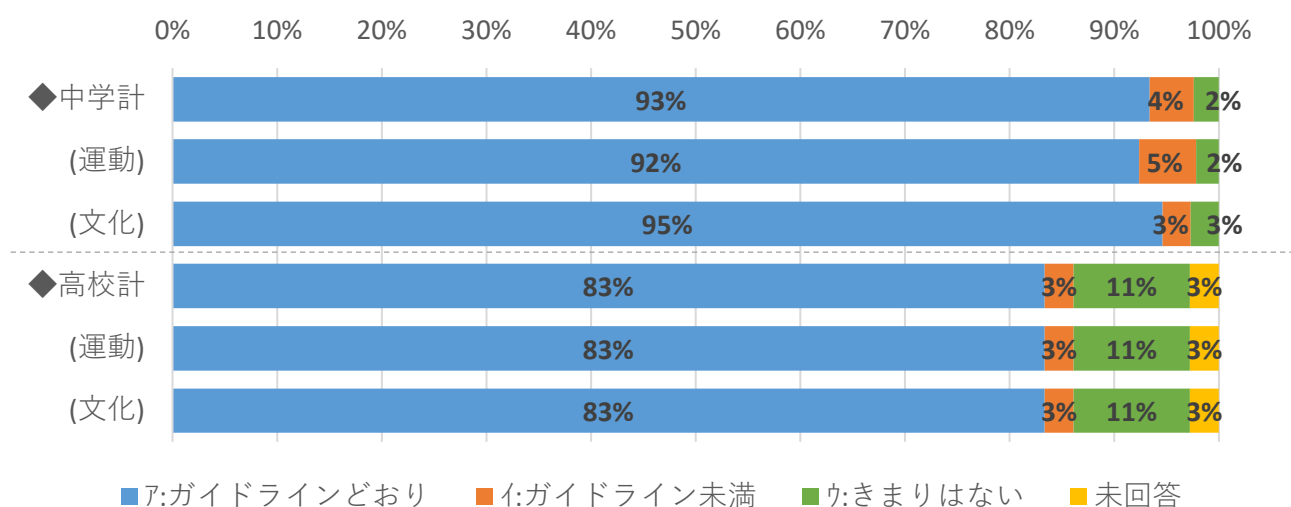
ウ 長期休業中の休養日に関するきまりはない

(高等学校)

ア ガイドラインどおり（長期休業中の休養日に関するきまりがあり、学期中と同じ（週1日以上）としている）

イ ガイドライン未満（長期休業中の休養日に関するきまりがあるが、休養日の設定は学期中よりも少ない（週1日未満））

ウ 長期休業中の休養日に関するきまりはない



		ア:ガイドラインどおり		イ:ガイドライン未満		ウ:きまりはない		未回答	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
中 学 校	合計	155	93%	7	4%	4	2%	0	0%
	(運動)	85	92%	5	5%	2	2%	0	0%
	(文化)	70	95%	2	3%	2	3%	0	0%
高 校	合計	60	83%	2	3%	8	11%	2	3%
	(運動)	30	83%	1	3%	4	11%	1	3%
	(文化)	30	83%	1	3%	4	11%	1	3%

(ガイドライン) 長期休業中の休養日	
中学校	休養日の設定は学期中と同じ（週2日以上）
高等学校	休養日の設定は学期中と同じ（週1日以上）

(4) 長期休業中の活動時間に関するきまり

Q. 長期休業中の活動時間に関するきまりについて、現状にあてはまるものを選択してください

(中学校)

ア ガイドラインどおり（長期休業中の活動時間に関するきまりがあり、学期中の週休日と同じ（長くとも3時間程度）としている）

イ ガイドラインより長い（長期休業中の活動時間に関するきまりがあるが、学期中の週休日よりも長い（3時間を超えている））

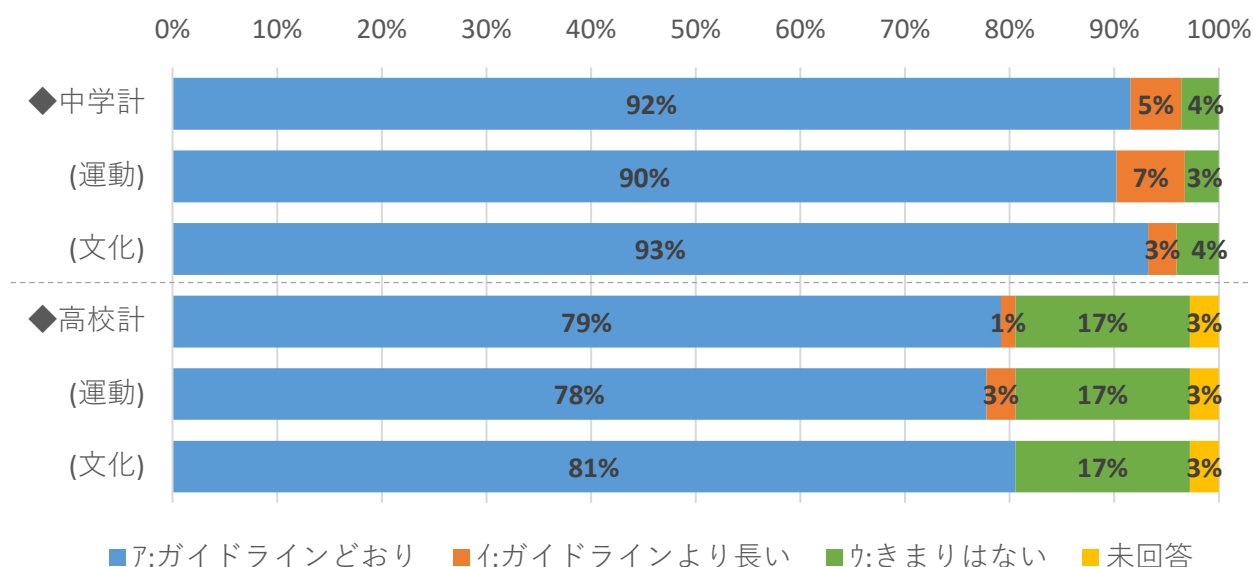
ウ 長期休業中の活動時間に関するきまりはない

(高等学校)

ア ガイドラインどおり（長期休業中の活動時間に関するきまりがあり、学期中の週休日と同じ（長くとも4時間程度）としている）

イ ガイドラインより長い（長期休業中の活動時間に関するきまりがあるが、学期中の週休日よりも長い（4時間を超えている））

ウ 長期休業中の活動時間に関するきまりはない



		ア:ガイドラインどおり		イ:ガイドラインより長い		ウ:きまりはない		未回答	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
中 学 校	合計	152	92%	8	5%	6	4%	0	0%
	(運動)	83	90%	6	7%	3	3%	0	0%
	(文化)	69	93%	2	3%	3	4%	0	0%
高 校	合計	57	79%	1	1%	12	17%	2	3%
	(運動)	28	78%	1	3%	6	17%	1	3%
	(文化)	29	81%	0	0%	6	17%	1	3%

(ガイドライン) 長期休業中の活動時間	
中学校	活動時間の設定は学期中の週休日と同じ（長くとも3時間程度）
高等学校	活動時間の設定は学期中の週休日と同じ（長くとも4時間程度）

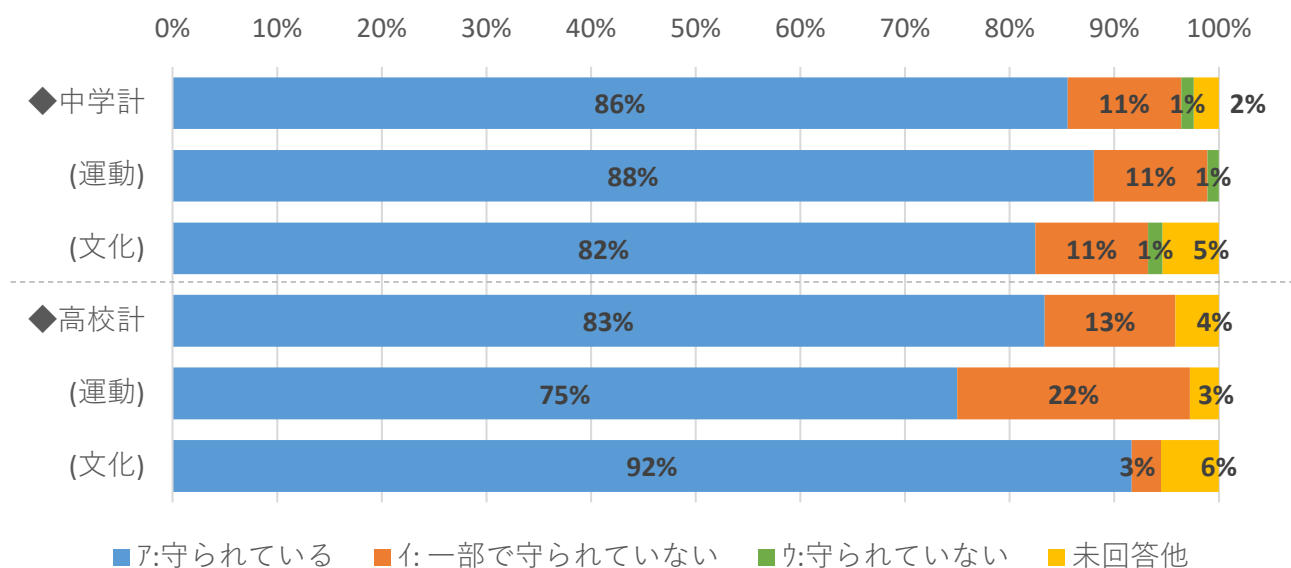
(5) 休養日または活動時間に関するきまりがある場合について

Q. 休養日または活動時間に関するきまりがあると答えられた場合、以下の設問にお答えください

① きまりが守られているか

Q. そのきまりが守られているかについて、現状にあてはまるものを選択してください

- ア 全ての部活動で守られている
- イ 一部の部活動で守られていない
- ウ 全て又はほぼ全ての部活動で守られていない



		ア:守られている		イ:一部で守られていない		ウ:守られていない		未回答他	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
中 学 校	合計	142	86%	18	11%	2	1%	4	2%
	(運動)	81	88%	10	11%	1	1%	0	0%
	(文化)	61	82%	8	11%	1	1%	4	5%
高 校	合計	60	83%	9	13%	0	0%	3	4%
	(運動)	27	75%	8	22%	0	0%	1	3%
	(文化)	33	92%	1	3%	0	0%	2	6%

② 決まりが守られていない部活動の事情や状況

<中学校>

- ・ 専門部により年度当初に予定された練習試合、遠方での交流試合、会場練習等で休日の活動時間が長くなることもある。
- ・ 大会やそれに向けての練習のため、週末に両日活動を行うことが多い。

<高等学校>

- ・ 遠征・試合等が連続している場合や、時期によって活動量が大きく変動する。
- ・ 競技によっては、休業日に4時間以内の活動時間では、技術向上が難しいとされている。

### 3. スポーツ・文化芸術環境の整備、地域移行（地域連携を含む）について

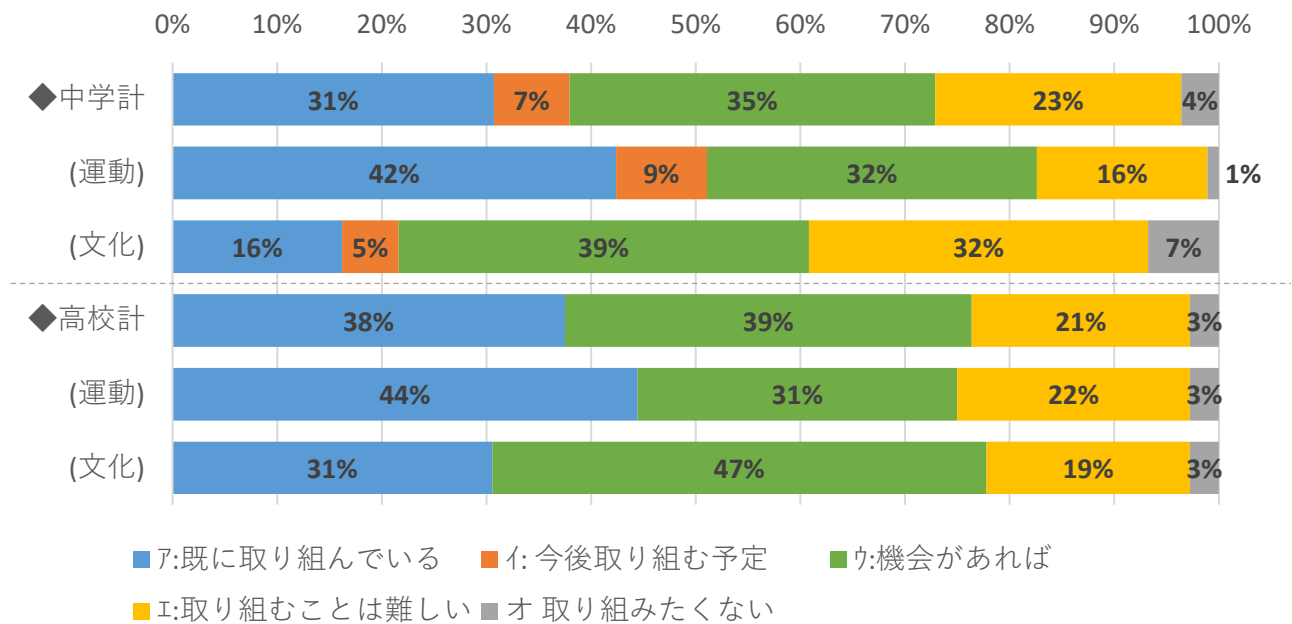
#### (1) 地域連携についての現状

##### ① 他校との合同部活動

Q. 取組状況や方針について、現状にあてはまるものを選択し、その理由や詳細についてお書きください（自由記述）

- ア 既に取り組んでいる
- イ 今後取り組む計画がある
- ウ 機会があれば取り組みたい
- エ 機会があっても取り組むことは難しい
- オ 取り組みたくない

#### [取組状況や方針]



		ア:既に取り組んでいる		イ:今後取り組む予定		ウ:機会があれば		エ:取り組むことは難しい		オ:取り組みたくない	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
中 学 校	合計	51	31%	12	7%	58	35%	39	23%	6	4%
	(運動)	39	42%	8	9%	29	32%	15	16%	1	1%
	(文化)	12	16%	4	5%	29	39%	24	32%	5	7%
高 校	合計	27	38%	0	0%	28	39%	15	21%	2	3%
	(運動)	16	44%	0	0%	11	31%	8	22%	1	3%
	(文化)	11	31%	0	0%	17	47%	7	19%	1	3%

**[理由や詳細]**

< 中学校 >

ア： 部員数の減少により、大会参加や効果的な練習のため、合同練習や練習試合、大会参加をしている。

イ： 生徒数の減少や、専門的に指導できる教諭の減少、クラブチーム化が進むことで、単独での部活動には限界がある。

地域移行のモデル地域ということで様々な取組があるようだが、実施には問題が山積していると感じる。

ウ： 今後、部員数減で単独チームが難しくなれば、検討していく。

合同部活動が運用されれば、生徒が種目の選択肢が増え、自分の興味・関心の高い活動ができる。

移動手段、移動費用等の問題、特定の指導者への負担の集中が懸念される。

吹奏楽部においては楽器輸送など合同練習の際に費用がかかる。

各学校や部活などで決めることはできないので、拠点校部活動の制度を市などが主体となって考えていただきたい。

エ： 物理的な距離の問題があり、時間が限られている中で、移動時間や手段を確保することが難しい。

< 高等学校 >

ア： 部員不足や専門指導者不足のため、合同での練習や練習試合、大会参加をしている。

ウ： 人数不足で大会等に出場ができない部活動があり、その生徒に対する措置を考える必要がある。

合同チームが認められる競技とそうでない競技があるため難しい。

休日や放課後に顧問の時間が多くとられるようであれば取り組むのは難しい。

山間地域であり、合同活動が行いにくいのが、部員不足のため合同で取り組む必要性を感じる。

エ： 継続して行うには活動場所までの移動や活動時間の調整等を考慮すると難しい。

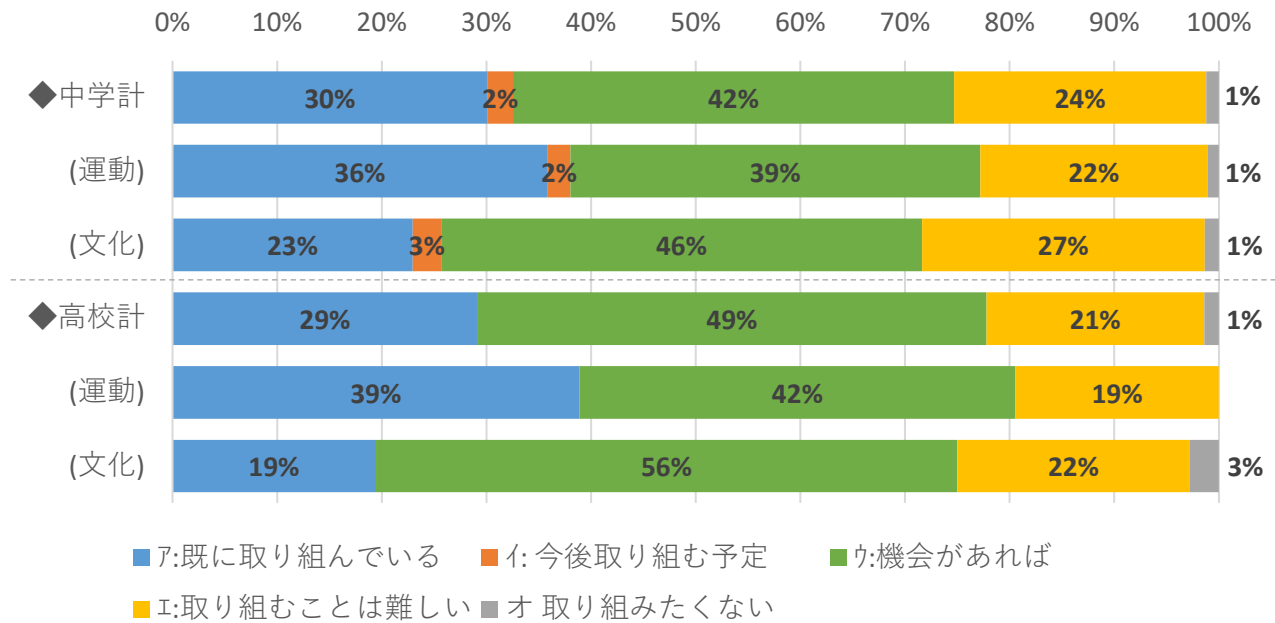
施設・設備・道具・移動手段の関係上、難しい。

オ： 活動場所の移動、様々な調整等で時間・体力を奪われる。

② 学校種を越えた、高等学校、大学及び特別支援学校等との合同練習等

- Q. 取組状況や方針について、現状にあてはまるものを選択し、その理由や詳細についてお書きください（自由記述）
- ア 既に取り組んでいる
  - イ 今後取り組む計画がある
  - ウ 機会があれば取り組みたい
  - エ 機会があっても取り組むことは難しい
  - オ 取り組みたくない

[取組状況や方針]



		ア:既に取り組んでいる		イ:今後取り組む予定		ウ:機会があれば		エ:取り組むことは難しい		オ:取り組みたくない	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
中 学 校	合計	50	30%	4	2%	70	42%	40	24%	2	1%
	(運動)	33	36%	2	2%	36	39%	20	22%	1	1%
	(文化)	17	23%	2	3%	34	46%	20	27%	1	1%
高 校	合計	21	29%	0	0%	35	49%	15	21%	1	1%
	(運動)	14	39%	0	0%	15	42%	7	19%	0	0%
	(文化)	7	19%	0	0%	20	56%	8	22%	1	3%



## [理由や詳細]

### <中学校>

ア：指導方法のアドバイスをいただいたり、高校生と一緒に会話や練習をすることで、目標設定や技術の向上につながる。

同じボール、ルールで可能な競技は、合同練習が可能であるため練習試合を実施している。

各連盟、協会の事業で行われたり、各部の顧問の個人的なつながりによるところが大きい。

地域で開催される祭りなどで、地域を盛り上げたいという意図がある。

イ：高校生が本校の近くで練習しているときに合わせて行う予定。

ウ：異校種との活動は、技術だけでなく練習姿勢や考え方等学ぶことが多い。

専門的な指導が難しい教職員が顧問となった場合、有効であるとする。

地元の高校に進学する生徒が年々少なくなっているため、中高連携のためにも。

責任の所在が不明瞭である。合同練習を実施するにあたっての連絡調整がかえって多忙感を増幅させる懸念。

市教委との連携、生徒数減少の状況等、今後方向性を検討していきたい。

エ：学校が遠方にあり移動手段がない、あるいは、保護者への負担が考えられる。

合同練習のコーディネート業務により顧問の負担が増す。

交通費、輸送費、会場費等の経費の問題（準備できない）。

### <高等学校>

ア：種目によっては、地元の小学校や中学校との合同練習、大学生との練習試合などを行っている。

学校内の活動ではできない学びがあると思う。

ウ：部員不足により十分な練習ができない部がある。合同練習により部活動の価値が高まる。

対外試合・活動など行いにくい地域であるため、様々な情報や経験を得るために必要とする。

多くない回数であれば可能だと思う。

エ：顧問の連絡調整の業務負担、心理負担が増加する。

近隣に適切な学校がなく、移動手段や時間などを勘案すると難しい。

施設・設備・道具・移動手段の関係上、難しい。

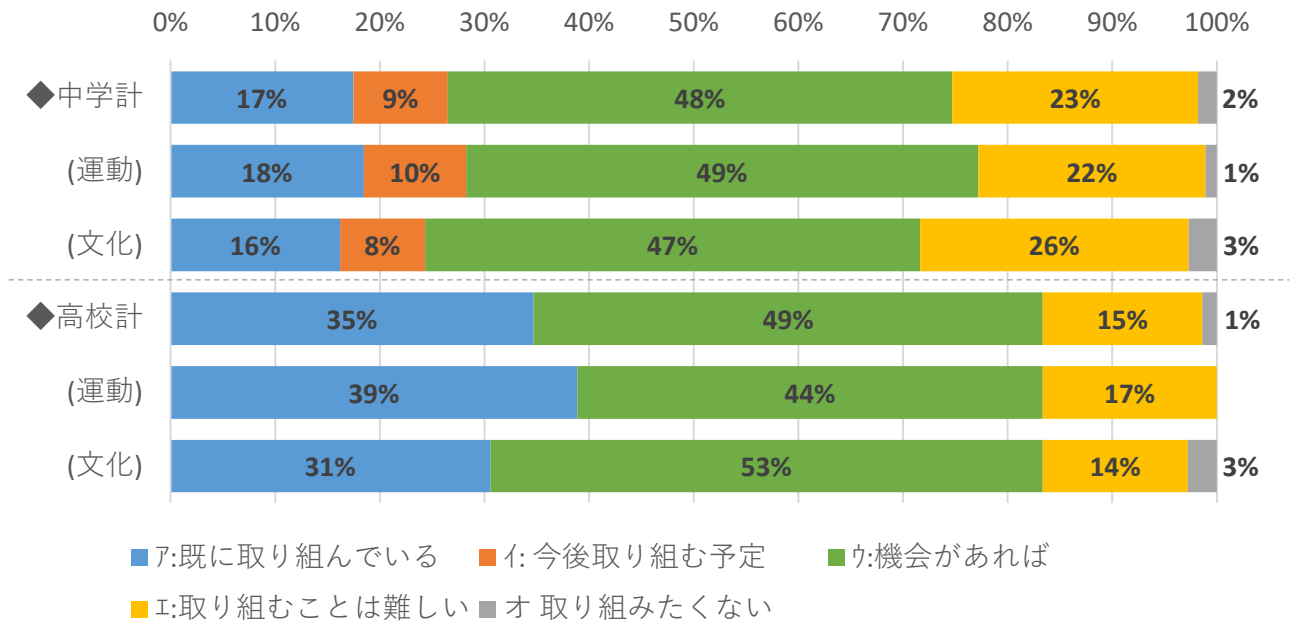
オ：活動場所の移動、様々な調整等で時間・体力を奪われる。

③ 休日の地域のスポーツ・文化芸術団体等との活動

Q. 取組状況や方針について、現状にあてはまるものを選択し、その理由や詳細についてお書きください（自由記述）

- ア 既に取り組んでいる
- イ 今後取り組む計画がある
- ウ 機会があれば取り組みたい
- エ 機会があっても取り組むことは難しい
- オ 取り組みたくない

[取組状況や方針]



		ア:既に取り組んでいる		イ:今後取り組む予定		ウ:機会があれば		エ:取り組むことは難しい		オ:取り組みたくない	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
中 学 校	合 計	29	17%	15	9%	80	48%	39	23%	3	2%
	(運動)	17	18%	9	10%	45	49%	20	22%	1	1%
	(文化)	12	16%	6	8%	35	47%	19	26%	2	3%
高 校	合 計	25	35%	0	0%	35	49%	11	15%	1	1%
	(運動)	14	39%	0	0%	16	44%	6	17%	0	0%
	(文化)	11	31%	0	0%	19	53%	5	14%	1	3%

## [理由や詳細]

### < 中学校 >

ア： 市教育委員会が取組を行っている。学校の方針として、地域活動に積極的に参加することを奨励している。

部活動にない種目を地域で取り組んでいる。

地域のレクリエーション活動等に参加している生徒がいる。種目によっては、個人の意思で参加する形で活動を進めつつある。

地域で演奏活動をしている団体とイベント等で一緒に演奏した。

地域の文化芸術団体に休日の指導に来ていただくことがある。

イ： 学校の実態に合わせ、団体等と連携を図りながら進めていく予定。

小中高の連携がしたい。

社会体育で行っている一部のスポーツが本校のチームとして大会等に参加しており、更なる連携を図っていく。

ウ： 機会があれば取り組みたいが、受け皿がない。

生徒の移動・輸送手段、費用負担の問題。

教員の負担軽減につながるとよい。市教育委員会の方針のもと、地域移行をすすめていきたい。

地域のスポーツ少年団等との連携や、地域に根ざした活動の実施に意義があると考えている。

エ： 地域に該当の団体が無いか、あっても活動日や活動時間が学校の実態と合わない。

地理的、時間的制限があり難しい。生徒の移動・輸送手段、費用負担の問題。

オ： 部活動と地域団体とでは目指すところや指導の方法などに違いがあると考えられ、協力して指導をするのは難しいため。

特に必要性を感じない。

### < 高等学校 >

ア： 当該種目の普及および強化のため。種目によっては、地域に根差した活動を行っている。

外部の団体などからの積極的な活動協力の呼びかけがある。

地域の文化団体とともに行事を開催したり、既存の行事に参加したりしている。

地域との交流は学校運営上でも必要なことである。また新たな気づきにつながると考えることができる。

ウ： 学校だけでは提供できない学びや経験を提供できるのであれば活用したい。

休日勤務等、教員に負担のない範囲内で実施するという条件付きで考えたい。

地域の方の支援を現在もいただいているが、十分な報酬を支払っていない。

地域の文化芸術団体がいない。

エ： 顧問の負担増になるため困難。単純に顧問の時間外勤務が増え、働き方改革に逆行する。

今のところ外部指導者の活用により地域のスポーツ団体との活動があまり必要ない。

活動日や活動時間が合わない。

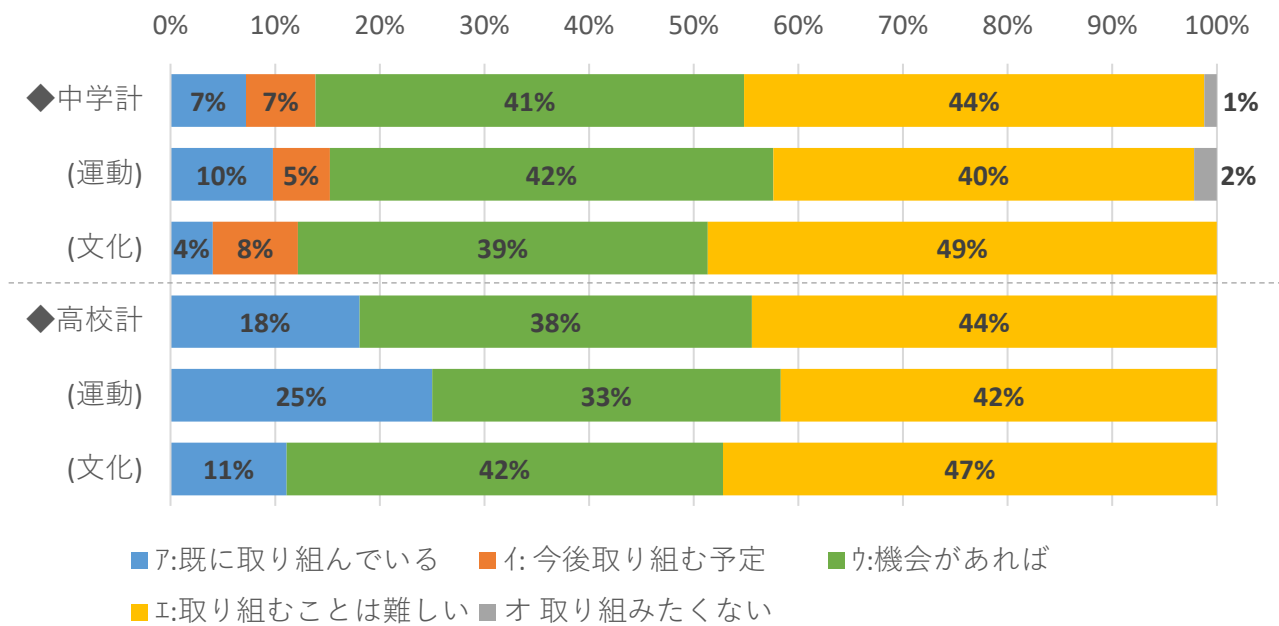
オ： 現在の活動で十分である。

④ 平日の地域のスポーツ・文化芸術団体等との活動

Q. 取組状況や方針について、現状にあてはまるものを選択し、その理由や詳細についてお書きください（自由記述）

- ア 既に取り組んでいる
- イ 今後取り組む計画がある
- ウ 機会があれば取り組みたい
- エ 機会があっても取り組むことは難しい
- オ 取り組みたくない

[取組状況や方針]



		ア:既に取り組んでいる		イ:今後取り組む予定		ウ:機会があれば		エ:取り組むことは難しい		オ:取り組みたくない	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
中 学 校	合計	12	7%	11	7%	68	41%	73	44%	2	1%
	(運動)	9	10%	5	5%	39	42%	37	40%	2	2%
	(文化)	3	4%	6	8%	29	39%	36	49%	0	0%
高 校	合計	13	18%	0	0%	27	38%	32	44%	0	0%
	(運動)	9	25%	0	0%	12	33%	15	42%	0	0%
	(文化)	4	11%	0	0%	15	42%	17	47%	0	0%

## [理由や詳細]

### <中学校>

- ア： 特定の種目において、地域指導者のもとで活動が行われており、生徒が参加している。  
地域の社会人チームや演奏活動をされている方が、平日練習等に参加して下さる。
- イ： 休日地域移行の状況を踏まえ、いずれは平日も見据えて進めていく必要があるため。
- ウ： 機会があれば取り組みたいが、受け皿がない。  
地域に既にある資源を生かして、教員の負担軽減につながる可能性があるから。  
市教委との連携、生徒数減少の状況等、今後方向性を検討していきたい。  
生徒が徒歩や自転車、スクールバス等で移動して参加できる活動であれば取り組みたい。  
生徒の移動や準備の為、平日には十分な活動時間が取れないのではないか。
- エ： 地域に該当の団体が無いか、あっても活動日や活動時間が学校の実態と合わない。  
平日は、学校運営上で連携が難しい。活動時間を確保することが困難である。  
楽器輸送、移動時間も考えると平日の活動は大変難しい。  
平日は校務もあるので、休日より更に難しい。放課後の生徒対応等あるため、引率等が難しい。  
交通費、輸送費、会場費等の経費の問題（準備できない）。
- オ： 移動して活動するとなると物理的に無理。生徒の負担が増す。（帰宅が遅くなりゆとりがなくなる）  
日程調整や事前準備等に時間をとられるため、業務改善を考えたとき、現状では難しい。

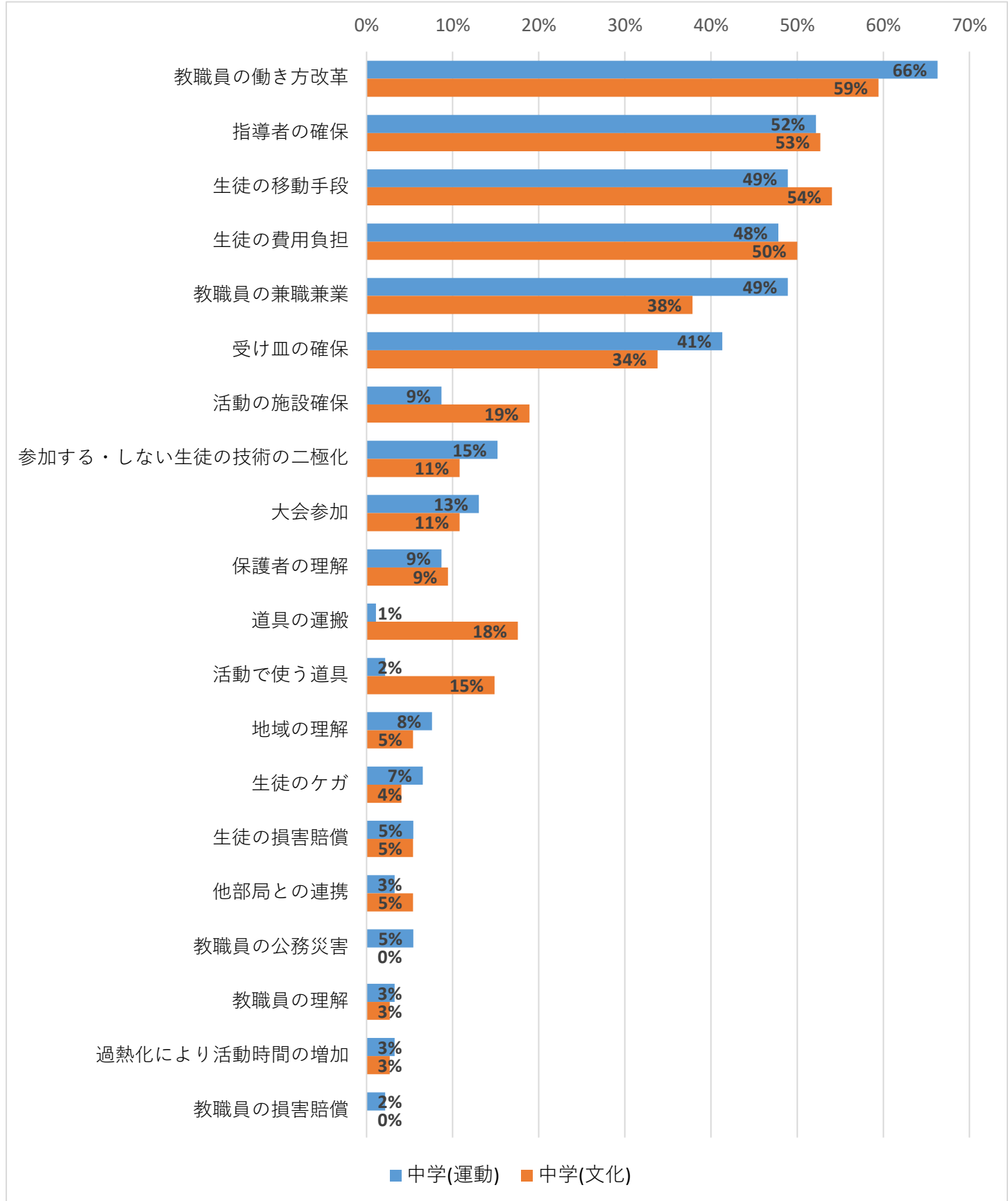
### <高等学校>

- ア： 当該種目の普及および強化のため。種目によっては、地域に根差した活動を行っている。  
地域の文化団体とともに行事を開催したり、既存の行事に参加したりしている。  
地域のクラブチームや団体と定期的に合同練習を実施している。
- ウ： 地域の催事やイベント等、機会があれば参加について積極的に検討したい。  
時間、費用的に余裕があれば取り組みたい。  
平日の部活動の時間が短いため、限られた範囲内での実施となると思われる。学校の生活時間との調整が難しい。  
休日や放課後に顧問の時間が多くとられるようであれば取り組むのは難しい。
- エ： 授業後に活動場所に移動すると活動時間が確保できるか、移動方法をどうするかが課題。  
教職員の帯同を前提とした活動は、教職員の負担が大きいと考える。基本的には平日は授業、学校行事、探究活動が優先。  
今のところ外部指導者の活用により地域のスポーツ・文化芸術団体との活動があまり必要ない。

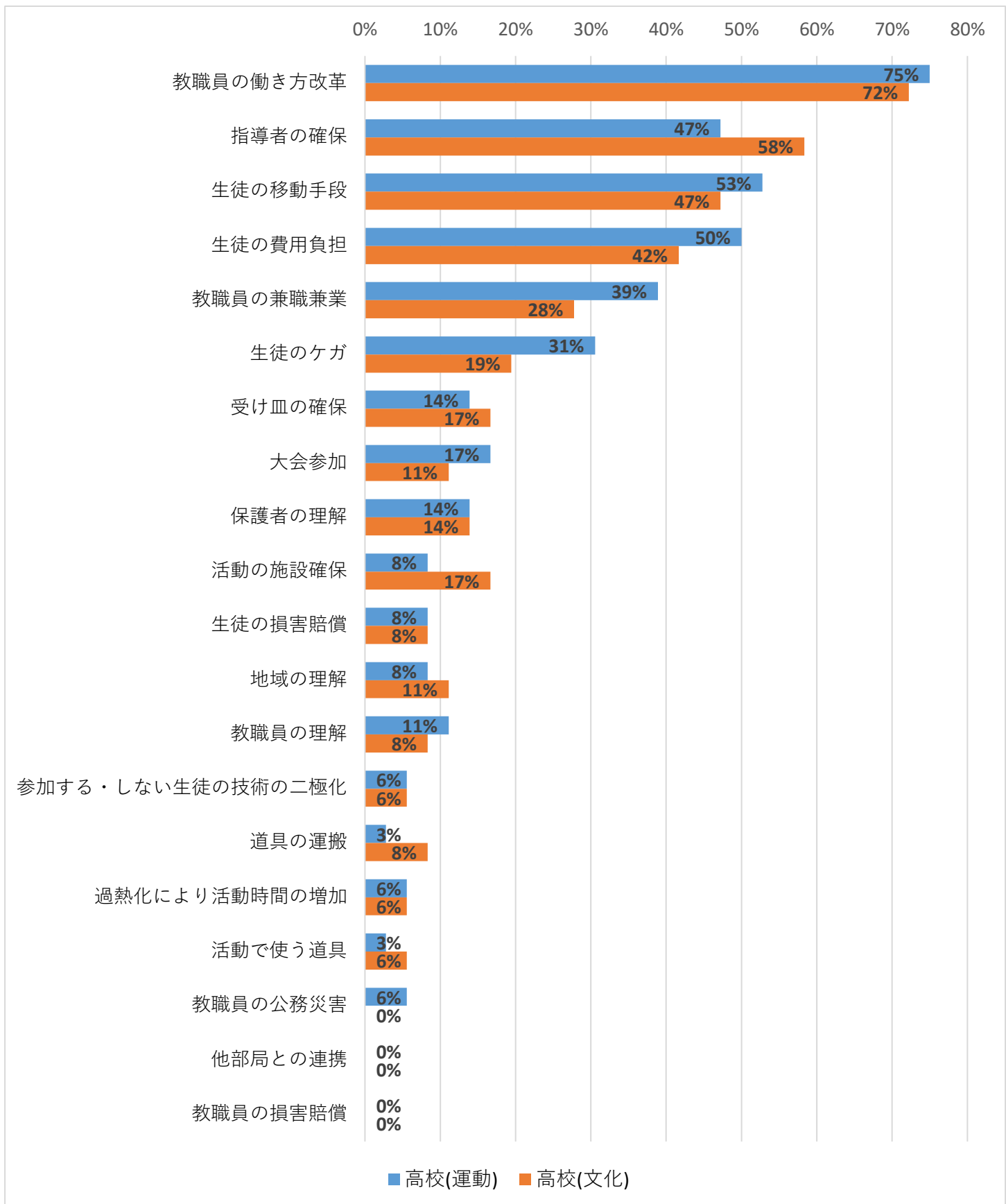
(2) スポーツ・文化芸術環境の整備、地域連携を進める上での主な課題

Q. スポーツ・文化芸術環境の整備、地域連携を進める上での主な課題を選択してください（4つ選択）

<中学校>



< 高等学校 >



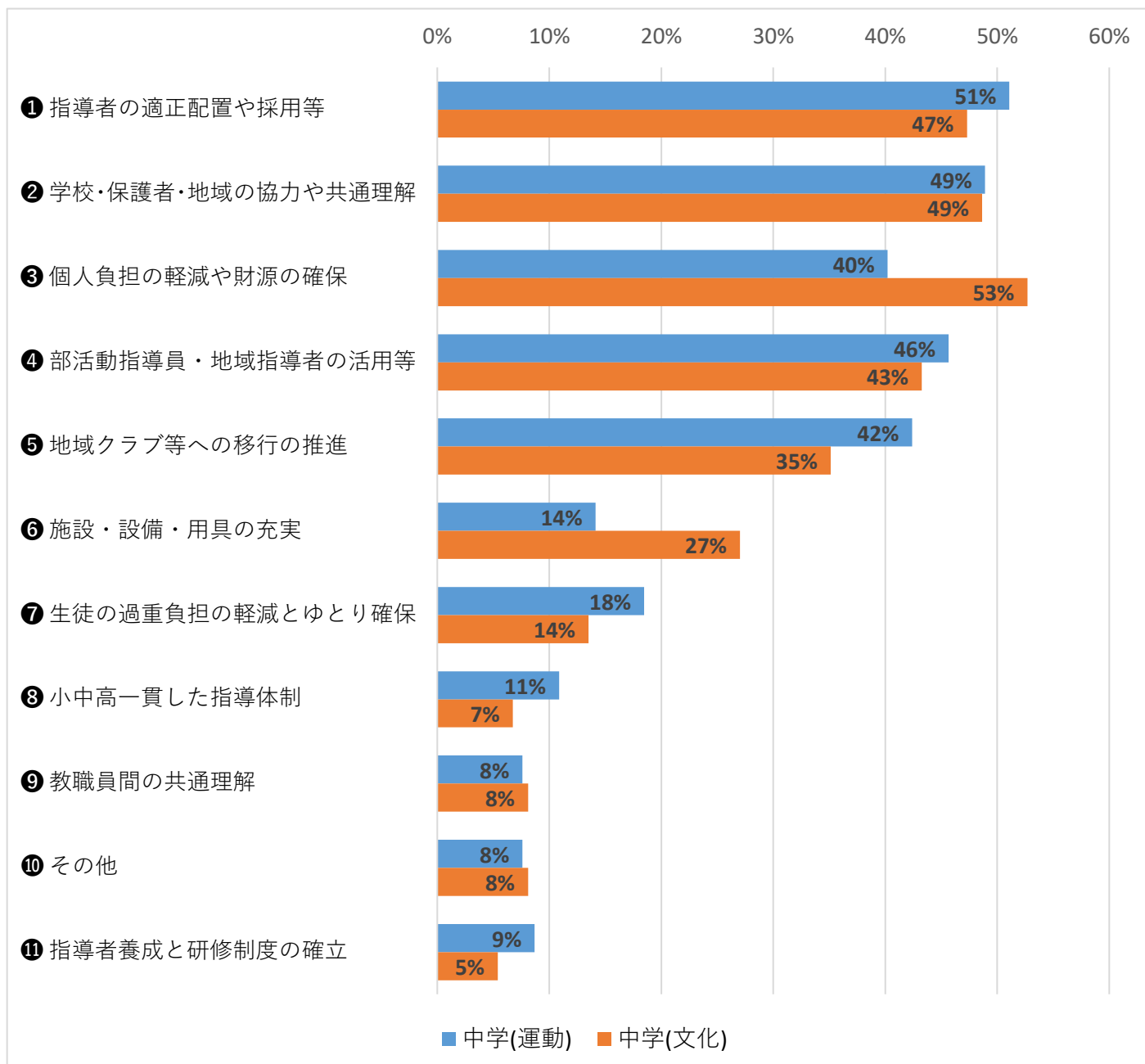
#### 4. 部活動の今後について

##### (1) 部活動をよりよい方向へ進めるための方策と理由や、あるべき姿等

Q. 部活動をよりよい方向へ進めるために必要と考える方策を3つ選択し、その理由やあるべき姿等についてお書きください（3つ選択+自由記述）

<中学校>

##### [必要と考える方策]



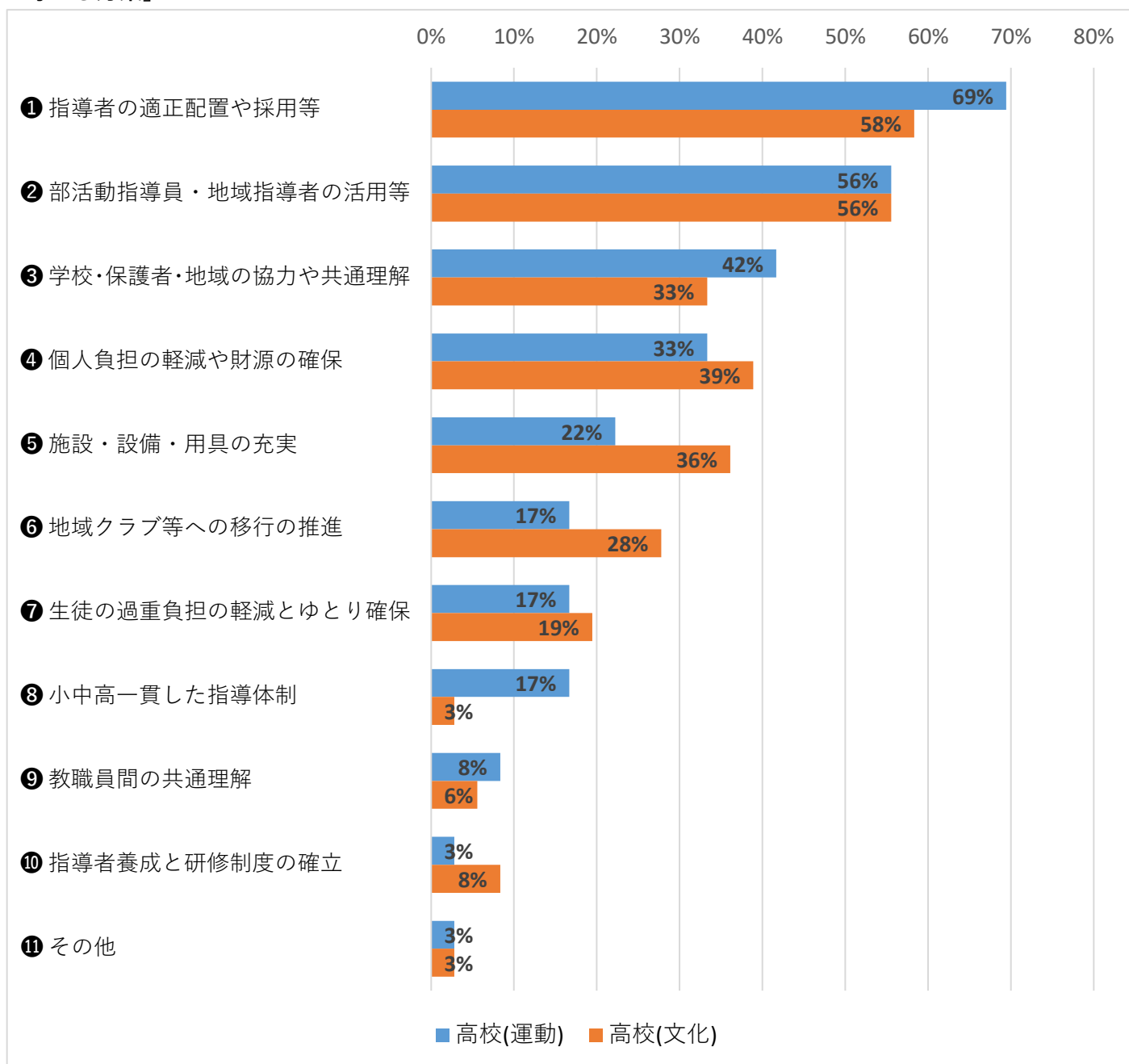
##### [理由やあるべき姿等]

- ①：専門外の種目を指導する負担は非常に大きい。競技によっては同じ学校に指導できる教員が複数人勤務していたり、いなかったりという現状なので、配慮するべきである。  
生徒の充実した活動のためにも指導者の適正配置をお願いしたい。  
学校で指導者を確保することは困難であるため、市教委やNPO法人等が中心となって運営を行っていただけるとよい。  
行政サイドで指導者の人材リストを整備したり、指導者養成や採用等のシステムをつくる。
- ②：課外や休日の活動を部活動にすべて委ねるのではなく、保護者や地域の手によって、生徒を育てる場の設定や、気持ちの醸成が必要。  
地域の指導者や保護者の協力、理解が必須。  
部活動の目的や意義、地域移行の必要性について、県や市が積極的に周知する。



- ③：学校で行う部活動だからこそ、経済的に苦しい状況にある生徒も活動を行うことができている現状がある。  
費用負担が大きければ、活動したくても金銭的な面で活動する機会を失う可能性がある。  
地域移行へ向けてクラブの運営や報酬、練習会場の使用料や交通費などへの対応が必要となる。  
地域の宝である子どもを育成する財源確保をしていただきたい。生き生きと生活をする子どもの姿が増えるところに魅力が増す。
- ④：どの部活動にも競技経験のある顧問がついているわけではないので、ある程度の専門性を地域に求めたい。  
生徒のやりたい運動を十分にやれる環境づくりができるとうい。  
地域の活動の充実を図るための指導者の育成。部活動指導員等を活用しつつ、将来的には学校から地域に移行する。  
指導者の人材確保が課題である。時間的な制約や様々な条件もあり人材を活用できずにいる。
- ⑤：業務負担が過重であり、生徒数、教員数が漸減している学校の現状を考えると、地域クラブへの移行の推進は必要。  
活動を続けたいという生徒の思いに対し、学校にとらわれない活動場所や指導者の確保が必要。  
指導者、会場、用具など、持続可能な指導体制が維持できるのか不安がある。
- ⑥：拠点になる施設や設備用具などの確保・維持、財源の確保が必要。  
老朽化の対応や安全性の確保が必要。
- ⑦：部活動中心の生活とならないよう、今後も適切な活動時間や休養日の設定が必要になる。  
ゆとりのある活動をしたい生徒、専門的に長時間活動したい生徒の二極化への対応が必要。
- ⑧：進級、進学した際に今まで取り組んでいた競技が継続できる環境がないのは指導者としては残念。  
相互の指導者不足を補うためにも、充実した指導のためにも工夫していくべきだと思う。
- ⑨：部活動に対しての共通理解・認識が必要。  
地域移行に向けた教職員間の共通理解と具体的な動きができるような行政の働きかけが必要。
- ⑩：教員の負担軽減、部活動手当の見直し、部活動担当の選択制の導入。  
行政や各連盟・協会等の団体における、方針の統一、連携した活動。  
指導者確保のための予算拡充。
- ⑪：より高度な指導技術、教育的な観点での指導技術を身につける必要がある。

[必要と考える方策]



[理由やあるべき姿等]

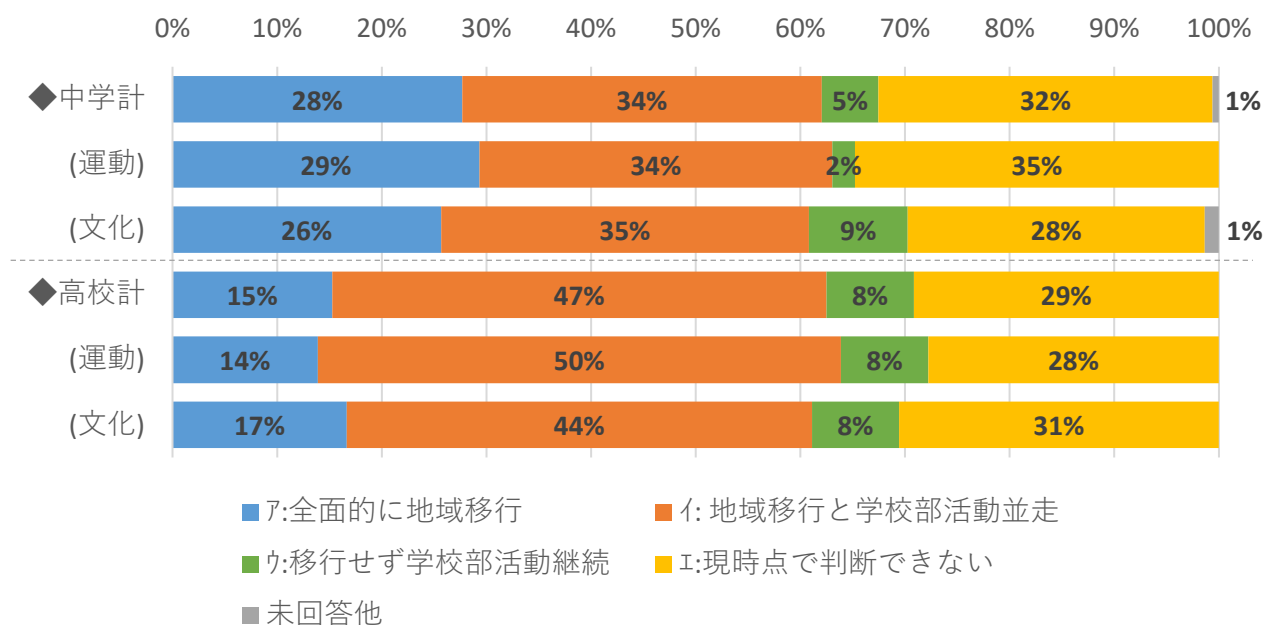
- ①：多様な種目、分野の部活動を維持するための適正な指導者の確保は課題である。  
部活動における各学校の特徴を考慮して、指導者の配置をお願いしたい。部活動の指導ができない教員ばかりでは、その部活動の生徒に不公平感が出る。  
学校で、適切な人材を採用し続けることは困難である。  
指導者の数・質ともに確保するために、ボランティアではなく適正な対価を保障することが不可欠であると思う。  
未経験者の負担を減らす。未経験者が気軽に研修を受けられる制度があるとよい。
- ②：働き方改革の観点から、部活動指導員および地域指導者の配置時間の充実を希望する。  
部活動指導員の研修も充実させ、部活動指導員の指導力の向上を図る。  
教員だけでなく、地に根づいた方々の協力を得て運営を行い、活動を活性化させていくのがよい。  
地元で指導者を探しているが、見つからない。仕事をしながらでは困難である。
- ③：学校だけでは人材、資金、場所に限界がある。学校、保護者、地域の三者の連携、協働があることにより、より良い部活動となる。  
教職員の負担について保護者や地域の方に理解していただけていないと感じることがある。  
保護者・地域の理解が得られなければ部活動の地域移行は進まない。

- ④：受益者負担は必要であると思うが、経費の理由で競技を断念する子どもが出ないような支援策が必要だと感じる。
- 生徒数減により、生徒会費等の収入が減り、学校からの大会等への補助額が減っている。その分、個人負担が増加している。
- 地域移行が進んだ場合、従来の保護者（PTA）からの包括的な支援が受けにくくなり、家庭の経済的負担が増加する可能性がある。
- 地域移行するためには、まず財源確保が大前提。意欲的に関わりたい教員の待遇改善のためにも必要。
- ⑤：施設の老朽化で、安全面に問題がある。活動場所や用具が不十分。個人の負担が大きい。
- 部活動を地域移行したときの施設や設備用具などの確保・維持、財源の確保が必要。
- ⑥：教職員の時間的拘束や専門性のない部の顧問をする心理的負担の軽減のため必要。
- 生徒各自が活動しやすい時間に活動に取り組むため、また、専門的に学ぶことができるための受け皿が必要。
- ⑦：生徒の健康面や生涯にわたって運動に関わる視点からも必要である。
- 部活動の意義が競技力向上に偏ることで、教員や生徒の負担が増加する。
- ⑧：一貫指導や各年代同士の連携を図ることで、競技力の向上や競技への動機づけを高めることが期待できる。
- 部員不足が問題であるため、地域ごとに一貫した活動を設定するなど工夫が必要。
- ⑨：時間外勤務でも、得意な専門分野で部活動を活発に行いたい教職員と、そうではない教職員がいる。
- ⑩：地域の方々に外部指導ができる方を育成・発掘する必要がある。
- 多様な種目、分野の部活動を維持するための適正な指導者の確保は課題である。
- ⑪：部活動顧問教員に対する対価の支払い、手当の拡充。
- 教員の過重負担の軽減とゆとり確保。
- 全国大会等の精選（各競技団体）。

(2) 部活動の地域移行の進め方や必要性について

Q. 部活動の地域移行の進め方や必要性について、現時点での考えに最も近いものを選択してください

- ア 全面的に地域移行を進め、学校部活動は残さない
- イ 部分的に地域移行を進め、外部指導者を活用しながら学校部活動も続ける
- ウ 地域移行は原則せず、外部指導者を活用しながら学校部活動を続ける
- エ 現時点では判断できないため、地域移行の動向を注視しながら決める

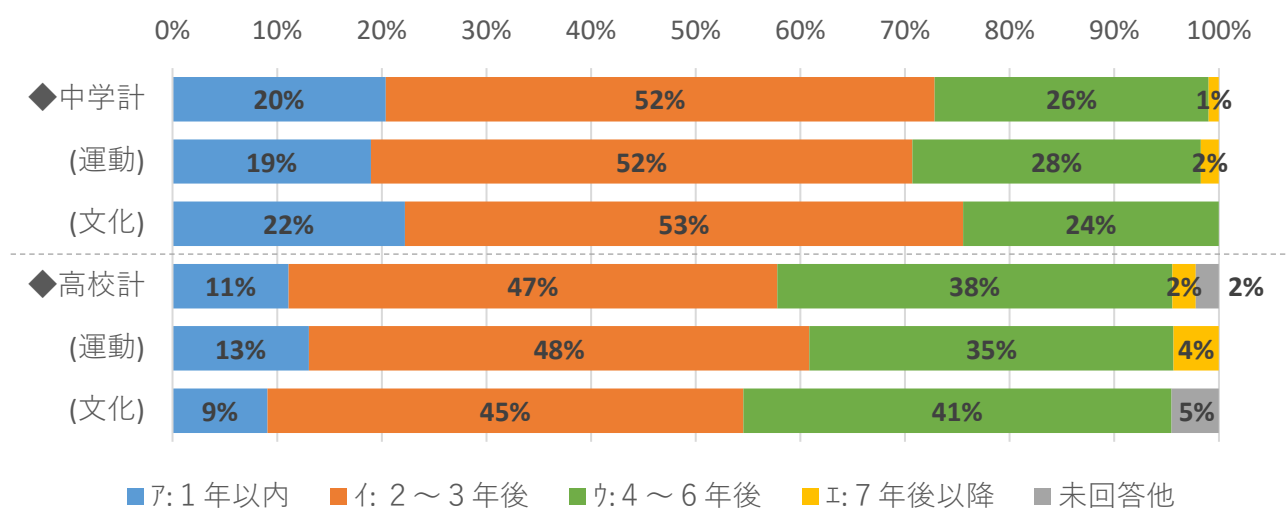


		ア:全面的に地域移行		イ:地域移行と学校部活動並走		ウ:移行せず学校部活動継続		エ:現時点で判断できない		未回答他	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
中学校	合計	46	28%	57	34%	9	5%	53	32%	1	1%
	(運動)	27	29%	31	34%	2	2%	32	35%	0	0%
	(文化)	19	26%	26	35%	7	9%	21	28%	1	1%
高校	合計	11	15%	34	47%	6	8%	21	29%	0	0%
	(運動)	5	14%	18	50%	3	8%	10	28%	0	0%
	(文化)	6	17%	16	44%	3	8%	11	31%	0	0%

**(3) 部活動の地域移行を開始する時期**

Q. (2) でア又はイを選択された場合、部活動の地域移行を開始する時期について、現時点での考えに最も近いものを選択してください

- ア 即時（1年以内）
- イ なるべく早く（2～3年後）
- ウ ある程度時間をかけて（4～6年後）
- エ 国スポ・全スポが開催されるR12年（7年後）以降



		ア: 1年以内		イ: 2～3年後		ウ: 4～6年後		エ: 7年後以降		未回答他	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
中 学 校	<b>合 計</b>	<b>21</b>	<b>20%</b>	<b>54</b>	<b>52%</b>	<b>27</b>	<b>26%</b>	<b>1</b>	<b>1%</b>	<b>0</b>	<b>0%</b>
	(運動)	11	19%	30	52%	16	28%	1	2%	0	0%
	(文化)	10	22%	24	53%	11	24%	0	0%	0	0%
高 校	<b>合 計</b>	<b>5</b>	<b>11%</b>	<b>21</b>	<b>47%</b>	<b>17</b>	<b>38%</b>	<b>1</b>	<b>2%</b>	<b>1</b>	<b>2%</b>
	(運動)	3	13%	11	48%	8	35%	1	4%	0	0%
	(文化)	2	9%	10	45%	9	41%	0	0%	1	5%

**(4) 部活動の地域移行を開始するにあたり、現時点で取り組まれていること**

< 中学校 >

- ・ 部活動指導員、地域指導者の活用。外部指導者の幅広い確保。
- ・ 地域スポーツクラブ、他校、高等学校との合同練習。地域クラブでの大会参加。
- ・ 市の地域移行に向けた取組への参加。
- ・ 保護者や地域への情報発信、情報共有、協力依頼。
- ・ 校内での移行に向けた部活動検討委員会の立上げ。
- ・ 小学生のクラブに付随する中学生クラブの創設検討。

< 高等学校 >

- ・ 部活動指導員、地域指導者の活用。外部指導者の幅広い確保。
- ・ 地域スポーツクラブや地域団体、教室との連携。
- ・ 年齢や学校、地域の壁を取り除いた、誰でも参加できるクラブの立ち上げ。
- ・ 地域イベント等の企画運営や地域の支援者募集。
- ・ PTAによる指導者謝金の支払い。

## (5) 今後の部活動の在り方について、意見等

### <中学校>

- ・ 勤務時間外の活動や、専門でない競技・分野の顧問担当等、部活動における教員の負担感は大きく、負担軽減や待遇改善が必要。
- ・ 生徒数、教職員数の減少で、今後、学校での同じような活動継続は不可能。学校から部活動を時間をかけてでも切り離していく。
- ・ 教育的効果が大きい部活動をどのような形で移行するか。部活動の意義が失われないように、連携を取りながら進めていく。
- ・ 全ての子どもが、平等にスポーツや文化活動に取り組める環境を整えていくことが必要である。
- ・ 教員の働き方改革を踏まえた活動の在り方を保護者・地域とともに考えることが必要。
- ・ 少子化や教員不足が叫ばれる中で、生徒にとって望ましい部活動であるよう、道を模索していく必要があると思われる。
- ・ 積極的に部活動を行いたいという教員に対し、待遇改善、兼業を可能にする等の体制整備が必要。
- ・ 県や市が先頭に立ち、方針やロードマップを示してほしい。
- ・ 地域移行においては、指導者の確保や移動手手段等の課題が山積しており、行政支援が見込めない中では難しい面が多い。
- ・ 地域の各団体に、部活動の地域移行への理解協力、説明をしていき、可能性を確認していく。
- ・ 大会参加のあり方について検討していく必要がある。

### <高等学校>

- ・ 各学校や地域、種目によって事情が様々あるので、最も適切な形で運営し、競技者・指導者ともに参加しやすいものにしていくことが重要。
- ・ 部員減少・指導者不在の状況で今後の運営はさらに厳しくなる。中高で合同部活動にしたり、近隣地域で合同部活動にするなど今後を見据えた準備が必要。
- ・ 外部人材か専門性のある教員で指導することが望ましい。教員業務の一環では難しく、外部人材と同等の報酬が必要であると考ええる。
- ・ 教職員の顧問は任意とし、平日も休日も勤務時間外の指導については適切な報酬を得られるべき。
- ・ 部活動の地域移行を早急に部分的にでも行い、教職員も部活動業務を行えるよう、兼職兼業を認めるべき。
- ・ 地域移行を推進することにより、勝利至上主義となり、生徒への負担が増えるという懸念がある。
- ・ 校内の部活動の精査が必要。部活動の統廃合についても積極的に検討できるように県からの指示や目安がほしい。
- ・ 地域移行するためには、全国大会を含めた大会の出場規定の見直しが必要。
- ・ 地域に受け皿がないので具体的に考えにくい。